

◇実践活動記録

実践テーマ「ふるさとを知り、ふるさとを愛し、ふるさとに生きる子供の育成」の下、「ふるさとすごろく」の制作を核にして本校の教育活動をマネジメントし、下記のように実践計画を構想し全校体制で取り組んだ。

平成30年度「学ぼう！ふるさと未来」支援事業「実践計画」(構想図)



1 3年生 社会科と総合的な学習の時間を横断的に関連付けたふるさと学習

(1) 3年生の社会科：単元「わたしたちのまち みんなのまち」(6月)

本学習では、校区の町の特色を様々な社会的事象から捉える。本校区は、射水市北部の海岸寄りに位置し、漁業や商業、木場の町として発展してきた。漁港や川の地形、県道や路面電車等の交通網、寺社や住宅地等を通して、町の成り立ちや地域の特性を根拠付けて学習することがねらいである。そこで、地図の見方を学習するとともに、校区を実際に見学し、地図に表してみる学習を行った。子供たちは、校区の様子を地理的観点から俯瞰的に捉える経験をした。この学習が、「すごろく作り」のベースとなった。

また、3年生の社会科において、本地域学習が、射水市の成り立ちに学習が発展していくと同時に、総合的な学習の時間：単元「見つけた！ふるさとのすてき」の学習の導入となった。



(2) 9月、3年生の子供たちは、総合的な学習の時間

において、社会科の学習で関心をもった校区の特色「もの・こと・人」の観点から、それぞれが課題を設定し、主体的に調べ活動を行った。本校区には、射水市においても、海王丸パークや内川を中心に水辺に親しめる街、歴史的・文化的に価値ある史跡、獅子舞や曳山といった祭り等を大切にしている街として、学習材の恵まれた地域である。特に今回は、社会科と関連付けたことで、町の名前にも関心が高まった。「学ぼう！ふるさと未来」事業を推進するうえで、郷土歴史研究家竹脇先生にアドバイザーとなっていただき、放生津の歴史と「町名の由来」について学習した。



子供たちが住んでいる町の名前には、歴史や理由があることに驚き、町名を通して、町に対する愛着を深めることができた。以下に、その事例を示す。

二の丸町	… 学校の所在地にかつて城があり、(二の丸) といった砦があったことから
神保寺町	… 神保氏が本地域を治めるよう命じられ、追従してきた家来が住んでいたから
四十物町	… 海産物を加工したもの(あいもの) を商売とする人が多く住んでいたから
紺屋町	… 着物の反物を染めることを商売とする人が多く住んでいたことから

(3) 総合的な学習の時間を通して育てたい能力

総合的な学習の時間を通して育てたい能力の一つに「追究したことを相手や目的を明確にして、収集した情報を効果的に使い、分かりやすく表現する力」がある。そのために「ふるさとすごろく作り」をゴールに設定し、他学年との交流や学校行事等を横断的に関連付けた活動を構想した(1ページ)。その一つが、「なかよしウォーク」である。



2 縦割り活動「なかよしウォーク」とふるさと学習（9月）

(1) 「なかよしウォーク」の新たな目標「ふるさとの魅力を再発見」

本校には、「なかよしウォーク」という校区を歩いて巡る行事があり、そのねらいは、縦割り班で協力することや児童の体力づくりにある。さらに、決められたコースを歩く中で、各グループは、教師がアレンジしたポイントをクリアする面白さを味わうものでもあった。これまでもふるさとのよさを発見する機会にはなっていたが、今回は、その意図を一層強め、教師自らが「*内川コース」を選定し、子供たち自身に、内川が観光名所となっている理由やその魅力を考えさせるという趣旨で企画・運営を行った。また、教師自身も、内川の魅力や本校区のよさを再認識する好機となった。（*内川…新湊の漁師が、富山海と船屋とをつなぐ水路として活用）



(2) 地域の方との交流

「なかよしウォーク」では、安全確保のため本校の見守り隊の協力を得ていることから、地域の方との交流が一層深まる。また、子供たちの活動のめあてにも、地域の方々への挨拶が位置付いていた。これまで顔見知りでない見守り隊の方とも出会うチャンスとなり、ここでの触れ合いは、本事業のねらいである「ふるさとを知り、ふるさとを愛し、ふるさとに生きている」ことを実感する機会となった。



無事に活動が展開できるのも、地域の方々のおかげだと感謝できたことが、やがて行われる「感謝の集い」ともつながっていった。

(3) 内川お宝発見ベスト3

「なかよしウォーク」終了後、各班で見付けた「内川にまつわるお宝」の中から、みんなで相談し、ベスト3を選び、短冊に書いて紹介し合うことができた。



全校児童が見付けた内川の魅力は、すごろくに活用されたり、「お散歩気分でお宝発見内川周辺をめぐるといふネーミングにも反映されたりした。

3 創校145周年記念集会：「はとっ子の歌」の制作と「ふるさと・学校を考える作文発表」（9月）

今年度は、本校は創立145周年という節目に当たり、児童・職員、保護者、地域の方々と共に、本校の歴史と伝統について理解を深め、学校に対する愛着と誇りを培う機会としたいと考えた。そこで、記念集会を開催し、本校のよさや多くの方に支えられていることについて考える場とし、皆で学校を大切にしていこうとする思いを高める場とした。

(1) 「はとっ子のうた」(児童会の歌)

学校もやがて、子供たちにとってふるさとの象徴となり、将来においてはかけがえのない存在になるにちがいないと考える。

歴史ある学校を尊び、学校や共に学ぶ仲間を大切に思えるような歌の制作を企画し、全校児童が関わることを前提に、「児童会の歌」の歌詞を募集した。各学級で話し合い、歌に盛り込みたい言葉を挙げてもらった。



その言葉を紡ぎ歌詞を完成させ(下記)、作曲を依頼して9月29日(土)に披露することができた。地域や保護者の前で、全校児童が心一つに歌う感動を味わうことで、学校や地域との絆が一層深まった。今後も機会ある毎に歌い、夢や希望にあふれた放生津小学校になることを願っている。

はとっ子の歌

作詞 放生津小学校児童会
作曲 山田 誠

一 おはようって声を

かけてくれた日

友達一人ふえたんだ

遊ぼうって 肩を寄せ合った日

友達いっぱいできたよ

ラララララララララ

ラララララララララ

※ はとっ子 なかよし 元気っ子

花も海風も 空も大好きさ

みんな笑顔で 歌います

二 そっと大丈夫と

言ってくれた日

うれしい心ひろがって

ありがとうって

目と目をつないだ日

仲間ときぎな深まった

ラララララララララ

※ 繰り返す

三 学校・先生 見守っている

希望の種がふくらむよ

明日もまたと

仲間まわっているから

※ 繰り返す

ラララララララララ

ラララララララララ

ラララララララララ

ラララララララララ

ラララララララララ

ラララララララララ

ラララララララララ

※ 繰り返す

ラララララララララ

ラララララララララ

※ 繰り返す

(2) 「ふるさと・学校」の歴史についての講話

郷土歴史研究家竹脇先生から、145年間の本校の歴史について講話をいただいた。学校の場所や名前が何度も変わり、火事で焼失後の学校がすぐに再建、戦後の困難な時代を乗り越えてきた事実から、子供たちは、地域の人達が、子供たちを学校に通わせたいという強い願いをもっていただいていたことを初めて知ることとなった。



(3) 「ふるさと・学校」を考える作文発表



145年という長い歴史の1ページに子供たち自ら関わった足跡を残すとともに、子供たちが、放生津小学校の一員であることに誇りに思い、学校や地域を大切にしたい子供を育てたいと考え、全校児童が、学校やふるさと放生津について作文を書くことにした。学年の発達段階に応じてテーマを選び、また、この機会を通して、作文の書き方指導を行った。

記念集会では、各学年の代表児童が作文を発表した。

4 「はとっ子すごろく」の制作と感謝の集い

(1) 『内川のお宝』総選挙（10月）

「なかよしウォーク」で各班が見つけた「内川のお宝ベスト3」を児童廊下に掲示しておいた。そして、「はとっ子すごろく」で紹介したい内川の魅力を全校児童の選挙で選ぶことにした。左の写真は、投票用紙を持ちながら、よい作品を選んでいく子供たちの様子である。「選挙」という形で、その結果をすごろくに反映させたことで、すごろくの完成への期待感を高めることができた。



『内川のお宝総選挙』によって、「はとっ子すごろく」に全校児童が関わる機会となり、また、自分たちの気付かなかった地域のよさをじっくり味わうことができた。

(2) 「はとっ子すごろく」作成のための作戦会議

これまで学習してきた材を基に「すごろくに載せる放生津のすてき」を決める話し合いをもった。調べた事柄から「放生津にしかないもの」という視点でふるいにかけた。曳山や内川の橋等はもちろんのこと、3年生の子供たちにとって身近だと感じるもの、例えば駄菓子や食堂、公園等も候補に上がり、子供らしい材料が集まった。また、「町名の由来は放生津の特徴をよく表すね」「なかよしウォークで選ばれた内川の橋は写真で載せたらよい」というようにアイデアが広がり、オリジナリティ溢れるすごろくへと発展していった。



試作品ができたところで、誰に遊んでもらいたいのか、また、すごろくとして楽しんでもらえるようにどんなふうに工夫するか、一人一人が真剣に課題を解決していく姿が見られた。

(3) 「感謝の集い」と「はとっ子すごろく」

11月22日（木）、日頃子供たちや学校がお世話になっている方々に感謝の気持ちを伝える集会を行った。これまでは、各学年がそれぞれ出し物を披露していたが、今年度は「はとっ子すごろく」を核にしたプログラムとしたことで、行事の内容の精選につながり、集会の形を刷新することができた。

各縦割り班の中に、招待者に加わってもらい、全校児童とすごろくを楽しんでもらうこととした。一つ一つの目が、地域の自慢の場所であることから、地域の方も興味深く子供の説明を聞いたり、初めて知ったというような感想を述べたりしていた。このような外部評価を得ることに



より、3年生児童は、これまでの学習に対する満足感を一層味わうことができた。

5 他学年との学習を関連付けた「ふるさと学習」の実践

(1) 1・2年生の生活科の学習との関連付け

1年生：単元「冬のあそび、日本のあそび」の導入時に、3年生からすごろくを紹介してもらった。それをきっかけに、身の回りの手作り遊びや日本の伝統的な遊びについて学習することにつながった。

2年生：単元「町たんけん」においても、探検を通して学校や家の周辺にある自慢できる面白いものを見付けていた。3年生が学習の成果としてまとめた「はとっ子すごろく」を参照しながら、2年生の子供たちもまた、本や新聞にして、ふるさとのすてきを発信するとともに、放生津へを大切に思う気持ちを育むことができた。



(2) 「6年生の学習」

6年生は、2学期で歴史の学習を一通り終了した。そこで身に付けた基礎的基本的な知識を基に、竹脇先生より「放生津の歴史」について、話を聞いた。子供たちは、日本の歴史ではあっても、自分の生活とかけ離れた存在として史実を捉えていたきらいがあった。

しかし、学校が建っている場所がかつては海や潟であったこと、守護所として放生津に城が築城されたこと、室町時代に足利義材が將軍として放生津に移り住んだこと、放生津城も戦国時代の波に巻き込まれ落城したこと等が分かった。子供たちは、歴史の上に今があり、また、放生津が越中の要として機能していたことを知り、ふるさとの歴史を尊ぶ気持ちを育むことができた。



(3) 「まっつんクラブ」・「めでた」郷土芸能の伝承

学習発表会では、地域に関わる活動の成果を発表する場を設けた。まっつんクラブでは、地元の獅子舞や曳山の祭り囃子を演奏した。また、4年生は、感謝の集いにおいて、漁師町に伝わる「めでた」を創作舞踊として披露することができた。どれも、放生津ならではの芸能であり、さらに、本校にとっても受け継ぐべく特色ある活動となっている。指導者である釣 岩由さんや大伴 節子さんとの触れ合いもまた、地域との絆を深める貴重な場となった。



